

令和7年度『東京芸術文化鑑賞サポート助成』103団体・158事業を採択 オールウェルカムTOKYO ～アートの感動を、みんなで、東京で～

東京都は、誰もが芸術文化に触れることができる共生社会の実現を目指しています。世界陸上とデフリンピック両大会が開催された本年、**従来の助成を拡充し、103団体・158事業を採択**したほか、両大会の時期にあわせて展開した「オールウェルカムTOKYO」キャンペーンには**300を超える団体が参加**し、都内各地で誰もが楽しめる公演や展覧会等が開催され、サポートの輪が広がりました。

この取組を大会後もレガシーとして積み重ね、「誰もが当たり前**に文化を楽しめる東京**」を目指し取組を進めていきます。

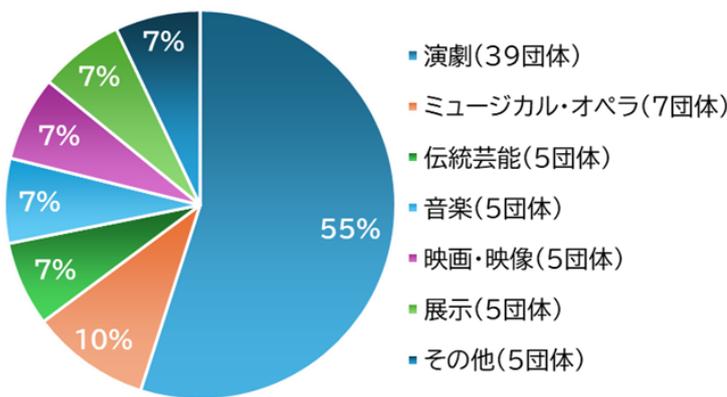
「東京芸術文化鑑賞サポート助成」実績

令和7年度は**103団体・158事業***（公演等）で実施

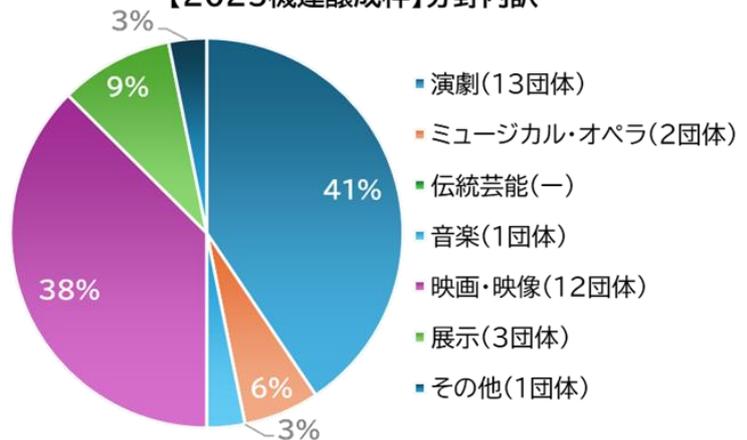
*【通常枠】71団体・111事業、【2025機運醸成枠】32団体・47事業の合計

（参考）令和6年度は**47団体・62事業**

【通常枠】分野内訳



【2025機運醸成枠】分野内訳



○採択事業では、**音声ガイドなどの聴覚情報支援**のほか、**バリアフリー字幕や手話通訳などの視覚情報支援、触れる模型、舞台事前説明会、台本貸出**など、鑑賞体験を豊かにする様々なサポートが導入されました。

○分野別では、昨年度に引き続き演劇が最多でしたが、今年度はミュージカル・オペラ、伝統芸能、音楽、映画・映像など幅広いジャンルの事業で実施されました。**次頁以降で実際の採択団体の取組状況や声をご紹介します。**

◆令和7年度「東京芸術文化鑑賞サポート助成」の概要

※ 今年度の募集受付は全て終了
2025機運醸成枠は令和7年度で終了

	東京芸術文化鑑賞サポート助成（通常枠、R6創設）	東京芸術文化鑑賞サポート助成（機運醸成枠、R7のみ）
対象経費	鑑賞サポートの取組にかかる経費 （手話通訳、ポータブル字幕機、音声ガイド、点字・サイン、事前舞台説明会、手話通訳者やガイドヘルパー等同伴者がともに鑑賞・参加するための経費 等）	
対象団体	芸術団体、民間団体、実行委員会、劇場・ホール等で、対象期間中に東京都内で展覧会、公演等の事業を実施するもの（都外団体も可）	左記に加え以下2点の要件 ① 集客規模等、波及効果の大きな事業の実施 ② オールウェルカムTOKYOキャンペーン協力
対象期間	令和7年7月1日から令和8年6月30日まで	令和7年9月1日から12月31日まで
助成上限額	150万円（補助率10/10）	300万円（補助率10/10）

助成対象事業の詳細は、アーツカウンシル東京のHPよりご覧ください。

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/grants/grant-for-accessibility/2935/>



1

株式会社梅田芸術劇場：①ミュージカル『マタ・ハリ』 ②ミュージカル『ISSA in Paris』

①2025年10月1日～14日 ②2026年1月10日～30日

台本データの入ったポータブル機器の貸与（全日程）、リアルタイム字幕タブレット端末の貸与（各作品5～6公演）



●鑑賞サポート導入背景

社内でダイバーシティチームを組織し、自主制作するミュージカル作品について、台本データの入ったポータブル機器による鑑賞サポートを行っていましたが、「自ら台本を読み進めていくことが負担」等のお声もあり、助成を利用することで、複数回にわたり、リアルタイムに字幕が切り替わるタブレット端末をご用意できることになりました。

●サポート利用者の声

字幕タブレット利用者からは、「作品内容の理解にととも役に立ち、物語に引き込まれ心動かされた」「字幕付き公演が複数回あることで日程の選択肢が増え、観に行きやすくなった」との高い評価を頂いております。一方で、こんな素晴らしい取り組みがあるのだから、もっと仲間たちに広めたい、チラシに大きく「鑑賞サポート付き」と記載したチラシを作ってくれたら、宣伝したのに、との広報的なご指摘を頂いたりもしました。

●今後の取組・課題

今後も可能な作品には、東京での公演に限らず、手話通訳やリアルタイム字幕を付与する取組を進めるほか、ライブ配信での字幕提供やBlu-ray Discへの字幕付与なども進めていく所存ではありますが、サポートを必要としているお客様へうまくお伝えできる仕組みも深めていきたいと考えております。

2

株式会社二兎社：二兎社公演49『狩場の悲劇』

2025年11月7日～19日

音声ガイド、字幕、台本貸出



●鑑賞サポート導入背景

2023年度までは、事前の台本貸出や劇場と連携しながら盲導犬、車椅子等を実施。2024年度は、鑑賞サポートの拡張を目指し、初めて音声ガイドを導入。また、スタッフがアクセシビリティ講座を受講し、ポータブル字幕を体験する等、鑑賞サポート全般に関する知見を深め、2025年度は、ポータブル字幕を導入し、さらにサービスを拡充することができた。

●サポート利用者の声

【音声ガイド】解説がセリフや音響と被らずに明瞭に聞こえてタイミングがばっちりでした。受信機の事前説明と、予備知識をガイドさんが読んでくれたので、重層構造のお芝居がよく理解できました。

【字幕】字幕サポートのおかげで内容を理解しながら楽しむことができました。

●今後の取組・課題

今回初めて行ったポータブル字幕、前回公演から行っている音声ガイド、今まで行ってきた台本貸出・車椅子対応について、劇場と連携しながら、実施方法を模索していく。音声ガイドの音量や情報量、字幕の形態など、個人の好みによって感想が大きく分かれることがわかった。個々の要望にどこまで対応できるかが課題となると感じた。

①2025年9月9日～21日 ②2025年10月26日～11月3日

触察模型、事前舞台説明、音声ガイド、聴覚サポート(日本語・英語・繁体語・やさしい日本語 字幕)、事前台本貸出 等



文学座公演『華岡青洲の妻』(2025) 鑑賞サポート(触察模型) ©菊地正志(記者)



文学座9月アトリエの会『野良豚 Wild Boar』 鑑賞サポート(端末貸出・多言語サポート) 撮影：鈴木美幸



文学座9月アトリエの会『野良豚 Wild Boar』鑑賞サポート(字幕) 撮影：鈴木美幸

●鑑賞サポートを実施しての気づき

鑑賞サポートが必要な方を想定していた開演前の舞台説明が、**ハンディのあるなしにかかわらず多くの方からご好評をいただき、作品の捉え方も変わった**という声を多くちょうだいしました。そのほか、**鑑賞サポートがあることで初めて文学座の芝居を観劇した**という方もいらして、その作品を見たいお客様全ては私たちに見えていなかったことを改めて教えられました。これから継続的に演劇のフリーアクセシビリティに取り組んでいきたい。

●サポート利用者の声

鑑賞サポートがあることを初めて知りました。とても良かった。/舞台装置に感動しました。鑑賞サポートが初めての経験だったので驚きましたが、とても良い取り組みだと思いました。/事前に装置の説明があったおかげでとても理解できた。/思っていたよりシンプルな舞台ということが説明の時点で理解できていた。

●今後の取組・課題

外部講師をお呼びし勉強会を行うなど、劇団内で人材を育成し、主体的・長期的に取り組むことを見据えています。150人にのぼる俳優が所属する「劇団」という特性を生かし、俳優自身が音声ガイドを担うことで、作品の魅力をより深く伝えられるだけでなく、劇団ならではの温かみのあるサポートを提供できると考えます。劇団内での音声ガイド実施を一つの目標に、次回公演に向け準備を進めています。まだ見ぬ観客、新たな出会いを生み出す取組になると期待しています。

2025年7月26日～10月5日

ウェブサイトアクセシビリティ、アクセシビリティ情報掲載、体験プログラムにおける鑑賞サポートの実施、折りたたみスロープの設置



●鑑賞サポート導入背景

会場の新宿歌舞伎町能舞台で、長期的な展覧会会場での利用は初めてでした。施設は完全なバリアフリーではありませんが、少しでも多くの方にご来場いただけるよう、来場しやすい環境作りや、どんなサポートが可能か等検討の必要がありました。アート×福祉の新たな可能性を切り拓いている専門業者とも協働し、当事者の方による現場検証等も踏まえ、サポートを実施しました。

●鑑賞サポートを実施しての気づき

初の試みとなる本格的な展覧会であり、また歌舞伎町という立地から来場者層の想定が難しい状況でしたが、結果として、障がい者手帳をお持ちの方の来場割合が非常に高く、付き添いの方を含めて約890名のご来場がありました。ウェブサイトに掲出したアクセシビリティ情報が、来場の一助になったものと考えられます。受付対応や移動時のサポート、鑑賞時の見守り等、運営チームがホスピタリティを意識した来場者対応を行い、大きなトラブルやクレームなく運営することができました。

●今後の取組・課題

今後も日本文化を中心とした文化事業を展開していく予定です。鑑賞サポートを求める方の割合が少なくないことが確認できました。会場のハード面には課題が残っていますが、ソフト面でどのように補完できるかを検討・実践できたことは、大きな成果であったと考えています。歌舞伎町は多様性のあるまちです。文化を通じてさまざまな背景を持つ人々がボーダーを越えてつながる場を生み出していくため、今後も鑑賞サポートを積極的に継続・発展させていきたいと考えています。

2025年10月4日~27日

音声ガイド(会場内テキストの読み上げアプリの導入)、多言語対応、鑑賞ツアーの実施



●鑑賞サポートを実施しての気づき

写真作品の内容や意図をどのように言語化し、伝えるかが大きな課題であると感じた。特に音声ガイド制作で、「あれ」「これ」等の指示語や、作品を見ていることを前提とした説明、同音異字による聞き取りづらさ等、展示テキストを音声化する際の工夫が必要であった。鑑賞ツアーの実施を通して、事前の告知方法や受付、案内計画の重要性を改めて認識した。必要とする人々へ、いかに適切に情報を届けていくかという点についても、多くの気づきを得ることができた。

●サポート利用者の声

鑑賞ツアーでは、参加者同士が写っている情報だけでなく、場の空気や登場人物の心情などを想像し、意見を共有することで、同じ作品でも受け取り方がそれぞれ異なることが実感された。また、後から背景を知り、写真が必ずしも事実をそのまま写しているわけではないと気づいた声もあった。自分では気づけなかった視点に出会う機会となり、対話を通じた鑑賞の意義が共有された。

●今後の取組・課題

自分のタイミングで知りたい情報にアクセスできる環境を整える、主催側が積極的に関わりながら体験をつくる、両方があることで鑑賞体験の幅が広がると感じた。音声読み上げや多言語対応は、鑑賞者が無理なく展示と向き合うための土台となり、鑑賞ツアーは対話を通して新たな視点に出会う機会を生み出していた。今後は、鑑賞者一人ひとりの状況や背景、感じているハードルを想像しながら企画や準備を進めていくことが、多くの人にとって開かれた展示やイベントにつながると考えている。

株式会社東急文化村

Bunkamura Production2025『アリババ』『愛の乞食』(1) DISCOVER WORLD THEATRE vol.15『リア王』(2)
「渋谷能 第二夜」宝生流(3)

①2025年9月15日 ②10月29日 ③10月17日

①②音声ガイド、バリアフリー字幕 ③バリアフリー字幕



渋谷能 舞台風景 撮影：前島吉裕

●鑑賞サポート導入背景

①②より多くのお客様に鑑賞機会を提供したいと意向が従来よりあったが、導入に伴う実務的・運営上の負担が大きいことが課題だった。助成を活用することで課題を軽減できたため、サポートを導入することとした。③もともと初心者・外国人向けのサービスだったが、障害者の方々にも有用な内容のため、鑑賞サポートとしての利用を促進したいと実施した。

●鑑賞サポートを実施しての気づき

①観劇しながらリアルタイムで利用できる音声ガイド・字幕タブレットの貸出に加え、知識経験のあるスタッフによる当日の案内対応など、手厚い内容を提供できた。②見込みより多くの方にご利用いただき、上演が長く台本の難しい公演をよりお楽しみいただくためには、リアルタイムでのサポートが必要だったと感じている。③サポート字幕のご利用で、演目の理解度向上をあげられる方が多く、公演をよりお楽しみいただける一助になっていると感じる。

●サポート利用者の声

- ①字が声の調子にあわせて大きくなったり、エコーがかかっているように感じる工夫がとてもよかった。世界観に入れた。
- ②舞台からの力がすごかった。展開が早く音声ガイドがなければついていくのが難しかったと思う。ノイズが少し気になったが、解説自体はわかりやすかった。
- ③動作、調子の解説が含まれているのが初心者にはわかりやすい。内容がよく理解できて金額以上の価値があった。

舞台手話通訳、受付手話対応、台本貸出、車いす席の設置



●鑑賞サポート導入背景

昨年度実施した鑑賞サポートを導入した上演に初めて劇場へ足を運ばれたお客様も多く、「安心して観劇できた」「観劇の選択肢が広がった」等の声を多数いただき、大きな手応えとなりました。鑑賞サポートは一過性のものではなく、今後も継続していくべき重要な活動であると考え、本年度の継続実施に至っております。誰もが当たり前で舞台芸術を楽しめる環境を広げていきたい、舞台鑑賞サポートをより“一般的なもの”として開いていきたいと考えております。

●鑑賞サポートを実施しての気づき

情報発信を強化し、当事者の方々だけでなく、一般の来場者の皆様にも大きな関心を寄せていただき、劇場全体で理解と共感が広がる空気感を醸成できたことは、大きな成果であったと捉えております。今回ご来場に至らなかった方に対しても、本取組が「舞台演劇」への興味を促す契機となり、いつか劇場へ足を運ぶ最初の一步となることを切に願っております。

●サポート利用者の声

手話通訳公演では、「手話を通して作品の内容をより深く理解することができ、大変嬉しかった」「最初から最後まで話の内容がちゃんと伝わり、他の手話通訳公演も拝見したいと思った」といった声が寄せられた。障害のない観客からも、「初めて観劇したが、手話表現に迫力があり印象的だった」等の感想があり、多様な観客にとって新たな気づきや体験の機会となっていることがうかがえました。その他、「出演者の皆様の手話を覚えて挨拶をしてくれてうれしかった」など、出演者・スタッフ一体となって作品づくりを行う姿勢についても、あたたかい評価をいただくことができました。

「オールウェルカムTOKYO」キャンペーン

両大会の開催時期を中心とした期間、アクセシビリティ向上の機運を一層高めることを目的に「オールウェルカムTOKYO」キャンペーンを展開。大会直前期に開催した記者懇談会・交流会には民間団体やメディアの皆様が70社以上参加するなど、関心の高さがうかがえた。キャンペーンには最終的に327団体が参加。団体の皆様と連携し、都内各地で誰もが楽しめる公演・展覧会等を集中的に展開、取組を一体的に発信し、共生社会の実現に向けた歩みを大きく進めました。



高まった機運を力に、サポートをもっと身近に。
“誰もが楽しめる芸術文化”を
東京から次のスタンダードにしていきます！

本件は、「2050東京戦略」を推進する取組です。
戦略15 文化・エンタメ
「芸術文化で躍動する都市東京を実現」



▲2050東京戦略



Creative Well-being Tokyo

だれもが文化でつながるプロジェクト

本事業は東京文化戦略 2030 のプロジェクト

「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環です。

問合せ先

生活文化局文化振興部企画調整課 山田 電話 03-5000-5684

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画部広報課 長澤 柳生 電話 03-6256-8432